

『JVA 2022 年上半期(1月～6月) 統計調査結果』について

当協会はこのたび、2022 年上半期(1月～6月)の JVA 会員メーカーのビデオソフト出荷統計をまとめましたので、その概要につきお知らせいたします。

2022 年上半期 (1月～6月) の実績について

○ はじめに

今期も昨年同様に新型コロナウイルス感染症の影響を多分に受けた期となった。今期実績については、コロナ禍による発売点数の減少や行動自粛による消費動向の変化も踏まえて市場の状況をみていく必要がある。

1. 今期のビデオソフトの総売上金額は 558 億 2,000 万円で前年同期比 80.3%となった。フォーマット別にみると、DVD ビデオは 228 億 9,100 万円で前年同期比 76.3%、ブルーレイ (Ultra HD Blu-ray を含む。以下、ブルーレイと表記。) は 329 億 2,900 万円で同 83.3%と前年同期をともに下回っているが、ブルーレイの方が減少傾向が低い。結果、DVD とブルーレイの構成比率をみると、前年同期に比べてブルーレイの比率がやや増加している。

<添付資料 表 1 >

2. ビデオソフト全体 (DVD ビデオとブルーレイの合計) の売上金額を販売用、レンタル店用の市場別にみると、販売用が 492 億 4,500 万円で前年同期比 79.5%、レンタル店用は 60 億 2,900 万円で同 86.5%と、両者とも減少傾向となっている。販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の売上金額における割合は、88.2 対 0.5 対 10.8 対 0.5 と概ね前年同期並みである。

<添付資料 表 4 >

3. DVD ビデオの販売用売上金額は 170 億 8,500 万円で前年同期比 73.8%、ブルーレイの販売用は 321 億 6,000 万円で同 82.8%とどちらも前年同期比を下回った。また、販売用全体に占めるブルーレイの割合は 65.3%となり、前年同期をやや上回る結果となった。

<添付資料 表 5A>

販売用全体の売上金額をジャンル別にみると、構成比1位の『音楽(邦楽)』(48.6%)は前年同期比116.2%、構成比3位の『洋画(TVドラマを除く)』(構成比7.6%)は同148.9%と、ともに前年同期を上回っている。一方、構成比2位(20.8%)の『日本のアニメーション(一般向け)』は、前年同期比43.6%と伸び悩んだ。この理由としては、前年に大ヒットとなった『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』のリリースがあった影響が指摘できる。以上の上位3ジャンルで、販売用全体の7割以上を占める。構成比4位以下では『日本のTVドラマ』(構成比6.7%)が前年同期比80.2%、『邦画(TVドラマを除く)』(同4.9%)が同68.5%、『芸能・趣味・教養』(同3.7%)が同60.3%となっており、前年同期に比べて減少している。

<添付資料 表 7>

4. ブルーレイの販売用の売上金額は321億6,000万円で前年同期比82.8%となった。ジャンル別に見てみると、構成比1位(45.6%)の『音楽(邦楽)』は前年同期比138.3%、構成比3位(9.8%)の『洋画(TVドラマを除く)』は同177.6%と大きく伸長した。一方、構成比2位(26.9%)の『日本のアニメーション(一般向け)』は、先に述べた『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』の影響で、前年同期比47.7%と大きく減少している。構成比4位(5.4%)の『日本のTVドラマ』も同76.7%と前年同期を割り込んでいる。

<添付資料 表 7>

5. DVDビデオの販売用の売上金額は170億8,500万円で前年同期比73.8%となった。ジャンル別にみると、前年同期では構成比43.2%であった『音楽(邦楽)』は、前年同期比92.7%と減少はしたものの、他のジャンルほどの落ち込みはなく、今期は構成比54.3%と全体におけるシェアを伸ばしている。一方、構成比2位(9.3%)の『日本のアニメーション(一般向け)』は前年同期比29.6%、同率2位(9.3%)の『日本のTVドラマ』は前年同期比84.2%となっており、『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』の影響で特に『日本のアニメーション(一般向け)』の減少幅が大きい。また、構成比4位(6.1%)の『邦画(TVドラマを除く)』は同75.5%、構成比5位(4.1%)の『芸能・趣味・教養』は同60.9%となっており、ここも販売用全体の減少率を上回る減少幅となっている。

<添付資料 表 7>

6. レンタル店用全体の総売上金額におけるDVDビデオとブルーレイの構成比は、91.6対8.4となり、DVDビデオが全体の殆どを占める。DVDビデオのレンタル店用の売上金額が55億2,300万円で前年同期比84.2%と減少しているのに対し、ブルーレイは、5億600万円で、同123.1%と大きく増加しているものの、レンタル店用全体の売上に影響を与えるほどの規模にはなっていない。

<添付資料 表5B>

7. レンタル店用全体の売上金額をジャンル別にみても、構成比1位(23.3%)の『アジアのTVドラマ』が前年同期比111.7%、構成比2位(21.1%)の『邦画(TVドラマを除く)』が98.8%、構成比3位(15.2%)の『洋画(TVドラマを除く)』が同104.1%となっており、構成比上位3ジャンルが前年同期以上、または前年同期並みとなり健闘している。一方、構成比4位(15.0%)となった『日本のアニメーション(一般向け)』が前年同期比72.1%、構成比5位(8.4%)の『日本のTVドラマ』が同80.8%、構成比6位(6.4%)の『海外のTVドラマ』が同68.8%と、構成比4位以下のジャンルが大きく売上を下げた結果となった。

<添付資料 表8>

8. 売上金額を売上数量で割って求めた1枚当たりの単価を見ると、DVDビデオ及びブルーレイの「販売用」の平均単価はDVDビデオで3,806円、ブルーレイで5,640円となり前年同期と概ね同程度となった。一方、「レンタル店用」の平均単価はDVDビデオで1,287円となり前年同期比79.8%と下回っている。

<添付資料 表6>

以上

追記

<本統計調査報告についての注意点>

- 本報告は、JVA 会員社が発売、販売する自社作品および他社作品の出荷段階の売上をまとめた統計である。
- 返品分は金額、数量とも調査時点において差し引いている。
- DVD とブルーレイのコンボ作品はブルーレイにカウントしている。
- 「日本の子供向け(アニメーション)」などにある“子供向け”とは、目安として9歳以下の子供を対象とした作品のこと。
- ブルーレイの売上にはUltra HD ブルーレイの売上を含む。
- 「特殊ルート」とは、雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるものの売上のこと。